



好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

君の声の力

校長 前田 光久

三百二十名の新入生とともに、鶴丸の新しい一年がスタートした。感染症対策により、今年も簡素化を余儀なくされた入学式であったが、式で行われた校歌紹介には、昨年引き続き再び感動させられた。新入生の目の前に整然と並び、音楽部員を主体とした二・三年生の生徒達。無伴奏のハミングに乗せて、本校の沿革紹介が続く。そして、校歌第一連が静寂の式場に厳かに流れ出した。

はるばると 流れてやまぬ
みんなの 青雲のはて

ピアノや吹奏楽も良いが、このアカペラバージョンは聴く度に心に響く。優しくも力強い部員達の肉声が、張りつめた式典の空間に淀みなく広がり、会場全体はその透明感に包まれる。歌詞を作詞された中馬幸子先生（一高女40回卒、鶴丸旧職員）は、この第一連について、「ある日、学校から甲突川を歩いて帰宅の途中、実感としてごく自然に心の中から流れ出てきたものです。三連の中でも最も素直に、現在の詩句のまま一字の訂正もなくすらすらと心から出てきました」と述べ、ご自身の「自然な内心の流露」であったと振り返っておられる。（年誌「はるばると」第12号 平成7年）

70年の時を超えた今も、鶴丸で学ぶ生徒にその遙遠（はるばると）さでもいうべき壮大なる心持ちは、確実に受け継がれていると思う。不覚の涙を禁じ得ないほどの美しく伸びやかな歌声に、人間の声のもつ力、肉声の凄さを実感することであった。胸に抱く思いを言葉にし、声に出して相手に伝える。これは、我々が普段繰り返している何気ない一連の作業であるが、日常の「挨拶」もその一つである。コロナウイルス感染症対応の中で、「密」を避ける生活が浸透し、マスク姿が当たり前となつてきた。以前は明るい笑顔とともに交わされていたあの挨拶は、若干その影をひそめた

ようにもみえる。恐らく、公の場で声を発することを無意識のうちに控えてしまっているのだろう。

東日本大震災以降、人々はその不安を少しでも和らげようと、絆の大切さを唱え、他者との繋がりを確認し合ってきたが、感染症の拡大により、その絆も細くなってはいないか。通常、我々は挨拶時の声や顔の表情によって、その時々相手の心情や体調までも推し量るが、顔の半分が覆われた今、挨拶時の発声はこれまで以上に意味をもつことになる。二・三生へは始業式でもお願いしたが、挨拶とは相手に心を開くことであるから、マスク越しであっても自ら心の扉をあけ、声を出す挨拶を是非心掛けてほしい。

音楽・音声ジャーナリストの山崎広子氏は、あるインタビューで「声の多様性は、社会の多様性に繋がる。特に今は人との間にマスクやアクリル板があり、感情のやり取りがしにくくなっている。自分の感情を伝え、人の感情を受け取るための素地をつくるのが人の声。こんな時代だからこそ、肉声で感情を伝えてほしい」と述べている。

君の挨拶は、相手に届いてこそ、その効果を発揮する。

時は金なり

一学年主任 稲森 成智

春の息吹が感じられる晴天の中、粛々と入学式は挙行され、鶴丸高校第76回生である君たちは少し緊張した面持ちで、高校生活の第一歩を踏み出しました。その7日後には甲鶴戦があり、先輩達の一生懸命さを感じ、または圧倒されたのではないでしょう。その翌週には快晴に恵まれた知覧への遠足で、仲間との時間を心置きなく楽しむことができました。入学してわずか2週間余の間に、これらの大きな行事に興奮、感動しつつ、同時にまた少しホッとしているところではないでしょうか。

さて、私は本校5年目になり、今まで多くの鶴丸生と触れ合ってきました。その中

で私の感じた鶴丸生は、学力を向上させた、部活動でも試合に勝ちたい、甲鶴戦・クラスマッチ・体育祭・文化祭等、どの行事においても積極的に参加し、何事にも一生懸命に取り組み、何事も極めたい、と良い意味で欲張りな生徒であると思います。卒業生に「高校生活はどうでしたか」と聞くと、皆、口を揃えて「忙しかったけど充実していました」と答えます。やりたいことは無限にある中で、時間は有限。先輩達に限られた時間のなかで、どのように時間を確保してきたのでしょうか。先輩達のように充実した日々を送れるように、以下の三つを心がけてみましょう。

①「三点固定」

起床時間・就寝時間・勉強を始める時間を固定することです。まずは、起床時間を設定してください。そこから睡眠時間6〜7時間を確保すると、就寝時間がみえてきます。鶴丸生は平均3〜4時間程度勉強しますので、逆算して20時ぐらいには学習を始めなければなりません。このように、逆算をして三つの時間を固定することで、生活リズムを整えてください。

②「学校のフル活用」

鶴丸高校は、朝6時以降、校舎が開いています。他校と違い朝課外がないので、仮に6時半に学校に登校できれば、7時55分の着席完了まで約1時間半の自習時間を確保できます。また休日も同様に、6時過ぎから16時15分まで自習をすることができ、5月実力考査明けから部活動が本格化し、今まで予習や課題に充てていた時間を確保することが難しくなったり、時間の捻出に悩んだりする人も出てくることと



4月19日、川商ホール（鹿児島市市民文化ホール）において、創立記念式および記念講演会が行われた。記念講演会では本校の51回生である、atama+株式会社の共同創業者／取締役の中下 真氏が、「好きな仕事を／取捨の中下、真氏が、「起業」という選択肢」と題して講演された。ご自身の経験をもとに、「もっと」やりたいことを見つめるために新しい体験を大切に、「今の環境」に留まらず新しい体験を、「本

き時間に教室で自習をしてください。多くの先輩たちも、朝活、休日などの隙間時間の活用で、学習時間を確保してきました。③「スマートフォン」スマホは広く、深く、生活の中に入り込んでおり、切っても切れない関係になりつつあります。それゆえ、生活リズムや人間関係、学習面、そして物の考え方にまで大きな影響を及ぼします。スマホを有効に利用できるか、またはスマホに振り回されるか、高校生活を大きく左右するという意味でその活用方法が鍵となります。再度、家族でスマホの使用時間などについて確認をしてみよう。

以上三つを心がけて、先輩達のように充実した学校生活を送ってください。

最後になりましたが、学校に慣れてきたら少しずつ自分の将来について考えてほしいと思います。新入生オリエンテーションで、「For Others」の視点を持つことで自分の将来を創造する、という話をしました。鶴丸が君たちに要求するレベルの高さ、やるべきことの多さ、また周り自分との違いに圧倒され、これまで体験したことのない日々がこれから押し寄せてくることでしょうか。「なぜ、勉強しているのか」分らなくなることもあると思います。そういう時は少し立ち止まって、「For Others」について考えてみてください。きつと、自分の「やるべきこと」、「将来の夢」が見えてくると思います。

5月の行事予定

日	日	内容	備考
5月1日	日		
5月2日	月	教育相談⑩ スマホ使用及びネットトラブルを考える特設LHR	45分
5月3日	火	憲法記念日	
5月4日	水	みどりの日 進研記述(3年)	
5月5日	木	こどもの日 進研記述(3年)	
5月6日	金	進研引継会	
5月7日	土		
5月8日	日		
5月9日	月		
5月10日	火	避難訓練(放課後) 学校安全の日	40分
5月11日	水		金曜授業
5月12日	木	実力考査(1日目) PTA総会	考査
5月13日	金	実力考査(2日目) 進研引継会	考査
5月14日	土		
5月15日	日		
5月16日	月	学年朝会(1年) 教育実習開始(〜5/27, 6/3)	5分遅
5月17日	火	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 SC来校(見玉先生 13:30~17:30)	
5月18日	水	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 立会演説会・生徒総会 検原二次	45分 2限 カット
5月19日	木	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 PTA総会欠席者会 眼科検診(全学年13:40~) 検原二次	
5月20日	金	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 進研引継会	
5月21日	土		
5月22日	日		
5月23日	月	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 全校朝会 集団読書(3年) 学校のしい〜と・SNSチェック(〜6/2)	5分遅
5月24日	火	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 交通安全教室	
5月25日	水	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 SC来校(大島先生 13:30~16:30)	
5月27日	金	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 中掃除 進研引継会	午後 10分遅
5月28日	土	バスケットボール総体本校会場 競台模試(3年希望者)	
5月29日	日	バスケットボール総体本校会場 競台模試(3年希望者) 第1回実用英語検定(一次 ※本校実施)	
5月30日	月	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 中間考査時間割発表 学年朝会(2・3年) 集団読書(2年)	5分遅
5月31日	火	【教育実習期間: 控室一研修室B使用】 本泳前健康相談(16:00~1年生)	

↑発行時の予定です。変更にご注意してください。

甲鶴戦 『千紫万紅』

『灯せ鮮烈な炎を』

4月15日、第52回 甲南・鶴丸スポーツ交流会(通称 甲鶴戦)が県立鴨池運動公園他で開催された。雲一つない青空の下、どの会場でも両校生徒が熱戦を繰り広げ、今年も大いに盛り上がる大会となった。結果は、甲南に総合優勝を譲ることとなったが、いずれの競技も白熱した接戦で、まさに「惜敗」ばかりであった。生徒達は「来年こそは」と決意を新たにしていた。



↑応援団のエール交換

←弓道競技の会場から競技中の様子



音で「実現したいことを目標にする」といったアドバイスを在校生へ送ってくださり、講演後は生徒との間で活発な質疑応答も行われた。

